

Q & A コーナー 3

インフルエンザ対策に関する質問

メディカルスタッフのための感染対策セミナー
事務局 Q&A担当

元石和世、中川祐子

質問1

家庭内で感染者が出た場合の2次感染予防について

スタッフ同居家族がインフルエンザを発症した場合、そのスタッフの就業は可能ですか？

・症状がなければ、就業は可能です。ただし、罹患リスクは高いため、潜伏期間は十分自覚をもって、職場では、手洗いとマスク等着用が必要です。



伊藤重彦先生（市立八幡病院）のスライドより

●インフルエンザの流行は、家族内感染からスタートする

感染者以外

- ・家族の誰かが感染したら、自分も罹る可能性を自覚する。
- ・潜伏期間と家族の治療開始を考慮して、概ね3日間程度は、手洗いやマスク着用に心がける（発病したときの、周囲への配慮）

感染者

- ・家族、とくに小さい子供さんや、高齢者には近づかない
- ・マスク着用と手洗い

質問2

インフルエンザ予防内服について、
基準などがありましたらお教えてください

入院患者から感染者がでた場合の予防投与はど
うしていますか？

○同室者の発症⇒

- ・一般的な予防投与の考え方でかまいません。

○アウトブレイク時（各施設の基準で）

- ・病棟単位で、対象を広く予防投与を行うほうが効果的です。

※伊藤重彦先生の講義スライドを参考にしてく
ださい（第8回セミナー講演記録集参照）

質問3

認知症・精神症状の悪化・理解力不足など安静を保てない患者に対してはどのような対策をとったらいいのでしょうか。

実情

- ・施設（ショートステイ・デイサービス）利用の方は、それぞれのかかりつけ医があり、予防接種の案内は本人・家族へは行うのですが、なかなか予防接種をしていただけない状況があります。
- ・また、症状があっても、通所、入所系の施設には家族の都合で利用に至るケースがあり、感染が広がるケースが見られます。

- 医療スタッフ、入院患者（入所者）へのワクチン接種
- 地域状況の把握
- 流行期のスタッフ、面会者のマスク着用の徹底
- 早期発見のための症状観察および迅速診断検査の実施
- 早期の隔離と集団活動の中止の検討
- 手指衛生の徹底（スタッフ・患者）
- 患者周辺環境、ドアノブなどの清掃・消毒
- 咳エチケットの徹底
- 予防投与の検討

施設内蔓延の原因として
持ち込みに要注意

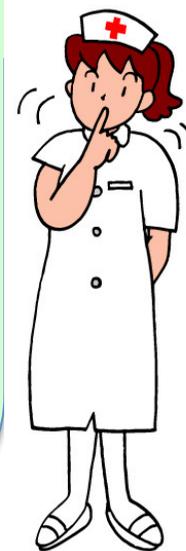
(伊藤先生コメント)

- ・このような患者さんを感染源として隔離対応することは、まず不可能です
- ・施設内では、症状がある間対応する職員を制限します（曝露職員を少なくする）
- ・職員や入所者が、できるだけ患者に近づかない環境を作る工夫をしましょう
- ・感染予防は困難であり、ワクチン接種による発病予防対策が唯一の対策となります。
- ・入所時のワクチン接種を必須とし、施設として、接種の確認できない場合に入所できないルールで望むべきです（入所後の感染の多くは、ご施設の対応の問題と解釈されることが多い）。

質問4

感染後、4人部屋の場合ドアは閉めたままにしておいた方がよいのでしょうか？

- ・個室と違い常時閉鎖は難しいと存じます。
- ・インフルエンザは飛沫感染なので、患者から2m以上離れていれば、必ずしもドアを常時閉めておく必要はありません。
- ・ただし、隔離している、されているという自覚を患者さん自身、職員が意識できるように、出入りが少ない時間帯は閉めるほうがいいでしょう。



質問5

職員（病棟・リハビリスタッフ）の病棟間の移動は禁止していますが、（食堂や売店・検査室・薬局など）他病棟のスタッフと接触する場合、対策をどうしているか知りたいです。

- ・ 職員の健康チェックは必須です。
- ・ 食事の時間はずらすか、場所を変えるなどを検討しましょう。
- ・ 医療従事者は、接触飛沫感染対策を十分理解しており、移動制限の必要はありません。



質問6

インフルエンザ感染者が発生した場合、どの程度まで制限をしていく必要があるのか・そうでないのか（インフルエンザ患者が発生した時、病棟スタッフの他病棟へ訪れることの制限やリハビリ制限、家族の面会制限を行っているのですが、理由になるのかどうかなど）

伊藤先生の第8回セミナー講義スライドを参照してください
⇒感染対策塾HPの講演記録集参照



質問7

インフルエンザを発生し、病棟で面会制限をかける場合、基準と解除に当たっての目安（基準）を教えてください。

伊藤先生の第8セミナー講義
スライドを参照してください
⇒感染対策塾HPの講演記録集
参照



質問 8

現在感染対策を実施する病室の清掃が十分できていないのが気になるのですが、付着しているウイルスはどのような環境でどの程度生息するのか知りたいです。

- ・ウイルスは、生体外では長期間生存できません
- ・インフルエンザウイルスの付着場所によって異なりますが、一般的に5分から48時間程度は生存すると言われていています。
- ・一方細菌は栄養がなくても1ヶ月くらい平気で生存できる種類の菌がいます

